

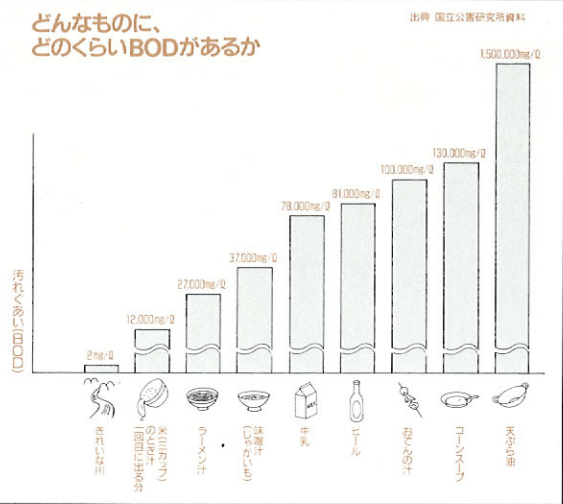
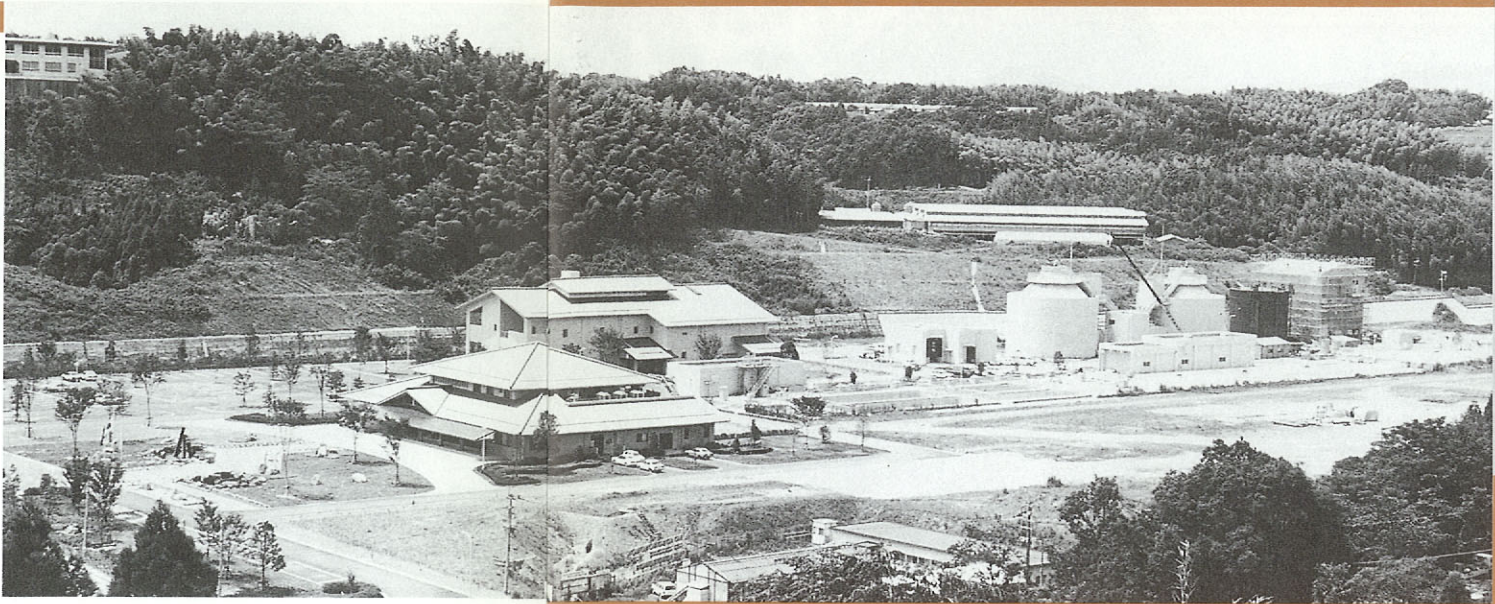
美しい川と海、そして豊かな暮らしのために

●熊本北部流域下水道●

都市化が進むにつれ、生活排水による水質悪化の問題が深刻になってきています。美しい川や海を守り、衛生的な生活を送るためには、下水道は必要不可欠の施設です。現在、熊本県の下水道整備率は二五・五％。これは全国平均の三九％に比べて低い割合を示しています。そこで、県では「100のターゲット」のひとつとして、あらたに「下水道整備の向上」を掲げました。目標は、平成七年度の下水道整備人口七十七万人（下水道整備率四七％）。県民の二人に一人が利用できるように、整備を促進しています。

さて、今回ママさんたちがレポートするのは、熊本北部浄化センター。北部町にある下水処理施設で、今年三月にオープンしました。ここでは、近年急速に市街化の進む熊本都市圏北東部一帯の下水処理を行っています。最新の設備で、新しいベッドタウンから排出された下水をきれいな水にのみがえらせているのです。

*「100のターゲット」
県政の様々な課題の中から目標を概ね100に絞り込み、その達成率を○段階の数字で表したもの。



山田 すごくきれいな建物でしたね。

下水道処理場って聞いて、どんな所だろうと思ってたんですけど、においもないし清潔な感じ。

八浪 まるでどこかの宿泊施設みたいでしたよね。ロビーには絵も掛けてあって。

山田 それにしても、水を汚してるのが殆ど生活排水だとは思いませんでした。河川の汚染っていうと工場排水をイメージしてたんですけど、ビール一杯でも随分川を汚すことになるんですね。（※グラフ参照）



八浪 由美子さん

八浪 ほんとに。ビールやお味噌汁なんかでそんなに水が汚れるとは思ってませんでした。

山田 うちの浄化槽なんですけど、浄化するのにはトイレだけなんですよね。お風呂や台所の汚水は、側溝にそのまま流れるわけでしょう。今までそれほど意識してなかったけれど、自分の流した物で、川を直接汚していると思うとゾッとしますね。もう何でも流してしまうのが怖くなって、お皿に残ったソースやしょう油は洗う前に拭き取ったり…。

八浪 主人の飲み残したビールは飲んで

山田 すごく勉強になります。顕微鏡をのぞいた時、バクテリアが下水中の汚れを食べてましたけど、下水処理は、あのバクテリアが汚れのかたまりになって沈みやすくなる性質を利用してるんですね。

山田 そういう微生物のはたらきを利用して汚泥と上澄水とに分けてるってきいて、なんとなく安心しました。薬品ばかり使って処理してるわけじゃないんだなあって。



山田 悦子さん

八浪 これからは、子供たちもどんどん見学に行くようになればいいんじゃないかな。小さい頃から環境衛生について教育することは、とても大切なことだと思うんですよ。

山田 そうですね。そして水を汚さないようにするにはどうしたらいいか、親子で工夫していかなきゃいけないね。

八浪 先日、知り合いの奥さんに、残りものの油で作った石鹸をいただいたんですけど、泡立ちも泡切れもすごくいいんです。これだったら油の処理と合成洗剤の問題が一度に解消されるなあって感じしました。



山田 主婦同士の情報交換って大切ですよ。気軽なおしゃべりから生活の知恵が得られて。

八浪 ちよつとした工夫でいい再利用の方法が見つかったりしますからね。浄化センターでも、汚泥を有機肥料や建築資材として使う研究などが行われているって聞いて欲しかったですね。

山田 ぼつと目をひく劇場などの文化施設だけでなく、下水道みたいな自立たない施設もちゃんと整っている…そういうことが文化都市の条件かもしれないですね。

八浪 ええ。一日も早く下水道が普及するといいですね。あの汚れた水が段階を追うことにきれいになって、最後には透明なさらさらした水になって流れていってほしい。あの差が印象的でした。

山田 せっかく「水の都」と言われるほど豊かな水に恵まれているんだから、もっと大切にしていきたいですね。「熊本の川」といえば「きれいな水」が思い浮かぶような、そんな街になればいいなあと思います。

